

《小学校 特別活動》

## 多様な意見を尊重し、合意形成を図る力の育成 ～意見を可視化し、折り合いの付け方を考える話し合い活動を通して～

那覇市立さつき小学校教諭 我那覇 ゆり子

### 〈研究の概要〉

小学校特別活動においては、社会に主体的に参画するために、「自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組む力」の育成が重要視されている。そこで本研究では、話し合い活動において、意見の可視化を工夫し、折り合いの付け方を考える活動を取り入れ、多様な意見を尊重し、合意形成を図る力の育成にむけ、実践を通して検証した。

実践を通して、意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせることで多様な意見を尊重し、よりよい意見に収束することができた。また、折り合いの付け方を考えさせる活動を取り入れることで、よりよい合意形成を図ることができたと考察する。

### 〈研究のイメージ〉



## 目 次

|      |                                                  |    |
|------|--------------------------------------------------|----|
| I    | テーマ設定の理由                                         | 25 |
| II   | 研究目標                                             | 25 |
| III  | 研究仮説                                             | 25 |
|      | 1 基本仮説                                           |    |
|      | 2 作業仮説                                           |    |
| IV   | 研究構想図                                            | 26 |
| V    | 研究内容                                             | 26 |
|      | 1 合意形成を図る力の育成について                                |    |
|      | (1) 多様な意見を尊重する態度とは                               |    |
|      | (2) 合意形成を図る力とは                                   |    |
|      | 2 話し合い活動における工夫について                               |    |
|      | (1) 合意形成を図る話し合い活動について                            |    |
|      | (2) 意見を可視化する工夫について                               |    |
|      | (3) 折り合いの付け方を考える活動について                           |    |
| VI   | 授業実践(第4学年)                                       | 28 |
|      | 1 議題名「かがやけ2組カレンダーをつくろう」                          |    |
|      | 2 議題選定の理由                                        |    |
|      | 3 本時から実践までの取組                                    |    |
|      | 4 本時の展開 (1) ねらい (2) 授業仮説 (3) 展開                  |    |
| VII  | 結果と考察                                            | 29 |
|      | 1 作業仮説(1)の検証                                     |    |
|      | 【結果】                                             |    |
|      | 【考察】                                             |    |
|      | 2 作業仮説(2)の検証                                     |    |
|      | 【結果】                                             |    |
|      | (1) 「折り合いの付け方を考える活動」について (2) 「合意形成を図る話し合い活動」を通して |    |
|      | 【考察】                                             |    |
| VIII | 成果と課題                                            | 32 |
|      | 1 成果                                             |    |
|      | 2 課題                                             |    |

《主な参考文献》

## 多様な意見を尊重し、合意形成を図る力の育成 ～意見を可視化し、折り合いの付け方を考える話し合い活動を通して～

那覇市立さつき小学校教諭 我那覇 ゆり子

### I テーマ設定の理由

特別活動ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(2016.8)において、社会に主体的に参画するために、「自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組む力」の育成が示された。また、平成28年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「学級会などの話し合い活動で、自分と異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」に「そう思う」と回答した児童は18%であった。

このことから、特別活動において多様な意見を生かし合意形成を図る力は、今後一層求められる資質・能力である一方、その定着に課題がみられる。合意形成を図る力の育成のためには、自治的な話し合いの充実が重要であり、更なる指導の工夫が求められている。

これまでの話し合い活動を振り返ると、異なる意見や少数意見の配慮に欠けたり、折り合えず多数決に頼ったりする姿がみられ、合意形成のための手立てが不十分であった。これらの課題解決に向け、何のために話し合うのかを明確にさせ、意見の違いを尊重しながら、少しでも納得できる合意形成に向け話し合う必要がある。そのためには、多様な意見を尊重し、合意形成を図る力の育成が重要である。具体的には、提案理由を根拠とする意見を考えたり、よりよい意見に収束したり、折り合いの付け方を考えたりする活動が、よりよい合意形成への有効な手立てであると考えられる。

そこで、本研究では、話し合い活動において、意見を可視化し提案理由を根拠とする意見を話し合わせ、折り合いをつけるための手立てを講じることで、多様な意見を尊重し、合意形成を図る力を育成することができると考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

多様な意見を尊重し、合意形成を図る力を育成するために、学級活動(1)の話し合い活動において、意見を可視化し、折り合いの付け方を考える活動の工夫を実践的に研究する。

### III 研究仮説

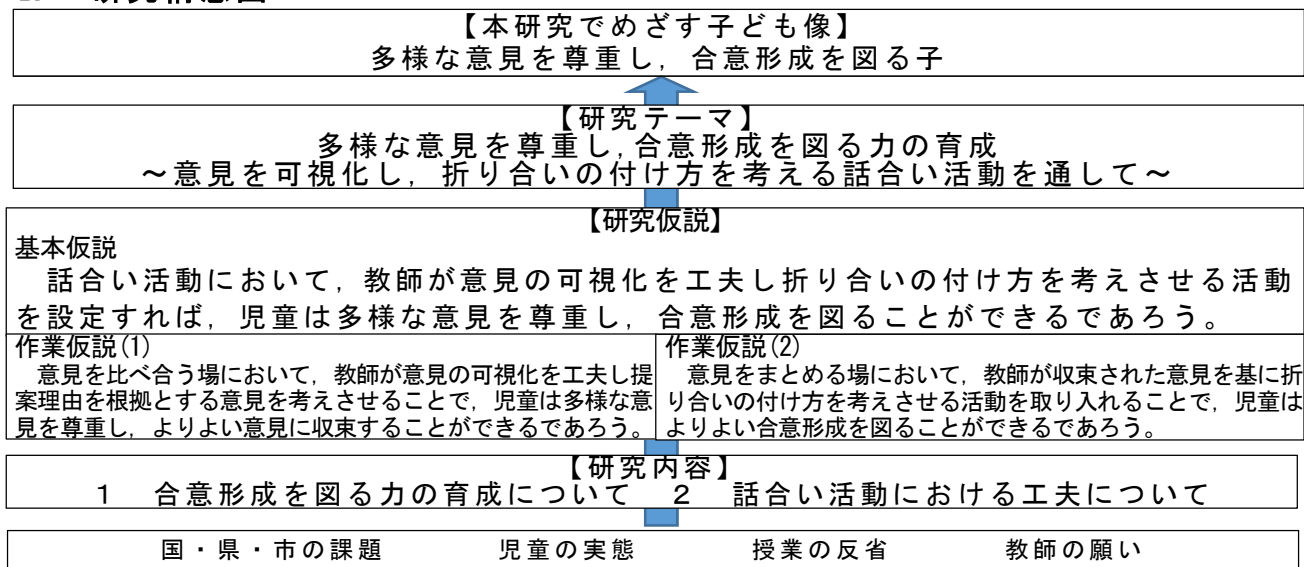
#### 1 基本仮説

話し合い活動において、教師が意見の可視化を工夫し折り合いの付け方を考えさせる活動を設定すれば、児童は多様な意見を尊重し、合意形成を図ることができるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) 意見を比べ合う場において、教師が意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせることで、児童は多様な意見を尊重し、よりよい意見に収束することができるであろう。
- (2) 意見をまとめる場において、教師が収束された意見を基に折り合いの付け方を考えさせる活動を取り入れることで、児童はよりよい合意形成を図ることができるであろう。

## IV 研究構想図



## V 研究内容

### 1 合意形成を図る力の育成について

#### (1) 多様な意見を尊重する態度とは

杉田(2013)は、人の意見を尊重する態度について「学級会を通して、単に話し合いの技術を身に付けるのではなく、子どもたちに相手の意見を尊重する態度をしっかりと身に付けようとする(中略)相手の意見を尊重し、少数意見にも配慮しつつ、話し合いで折り合いをつけていくことができるようにすること」が大切だと述べている。また、特別活動ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(2016.8)では、「全員が完全に合意できる『正解』がない中で、互いを認め合い、意見や立場等の違いを尊重しながら、熟慮し意見を交わしながら少しでも納得できる合意形成に向けて進んでいく。」ことが望ましい集団活動につながると述べている。

このことから、互いの意見を尊重する態度が、折り合いを付けていくことに繋がり、合意形成を図るために重要であると捉える。

次に、小学校学習指導要領解説特別活動編(以下、指導要領解説という)の「発達の段階に即した指導のめやす」から、話し合い活動について表1にまとめた。表1から、多様な意見を尊重する態度は、自分と異なる意見を含む互いの意見を聞き合い、生かし合う中で育まれると考える。

そこで、本研究では、提案理由に迫る意見はどれかという視点で、互いの意見を比べ合い、公平に判断させ、多様な意見を尊重する態度の育成を目指す。

**表1 発達の段階における話し合い活動**  
**【学習指導要領解説特別活動編より】**

|     |                                |                                   |
|-----|--------------------------------|-----------------------------------|
| 小学校 | 低学年                            | 互いの意見をよく聞いたり、気遣ったりして、仲良く助け合って話し合う |
|     | 中学年                            | 異なる意見にも耳を傾け、公平に判断して話し合う           |
|     | 高学年                            | 多様な意見のよさを積極的に生かし、信頼し支え合って話し合う     |
| 中学校 | 相互に尊重し合いながら、最終的には学級としての意見をまとめる |                                   |

#### (2) 合意形成を図る力とは

小学校学習指導要領(案)(2017.2)において、その目標に「合意形成」という文言が新しく明記された。これを受け、新しく求められた「合意形成」を図る力とは何か、その育成のためにどう指導すればよいのかを明らかにすることが求められる。『特

別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】』には、「『合意形成を図る』とは、互いの意見の違いを超えたり、よさを生かしたりしながら最終的に“自分もよくてみんなもよい”というように集団として意見をまとめること」とある。

これらのことから、児童が折り合いを付けながら、自分もよくてみんなもよい意見にまとめていく合意形成までの過程が重要であると考ええる。

そこで本研究では、話し合い活動において、児童一人一人が考えた多様な意見を基によりよい意見に収束し、折り合いを付け、学級としての意見をまとめていく経験が合意形成を図る力を育んでいくと考え、実践に取り組んでいく。

## 2 話し合い活動における工夫について

### (1) 合意形成を図る話し合い活動について

指導要領解説では、中学年において「異なる意見にも耳を傾け、公平に判断したりして、楽しい学級生活をつくるために折り合いを付けて集団決定ができるように適切な指導をすることが大切である」と示している。教師は、児童が「折り合いを付ける」ことができるように発達の段階に即した適切な指導をする必要がある。『特別活動指導資料楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】』（以下、『特活指導資料』という）では、折り合いを付ける条件を3つ挙げている(表2)。

表2 折り合いを付けるための三つの条件  
【特活指導資料小学校編】

- |                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①提案理由がまとめるための根拠になっている。<br>(何のためにするのか、何のために話し合うのか)<br>②まとめるための条件が明らかになっている。<br>(いつ、どこで、何を、どのようにするのか)<br>③まとめるまでの道筋のイメージが共有されており、<br>児童はまとめるための意見を言うことができる。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

以上のことを踏まえ本研究では、表2の①提案理由の共通理解と③話し合いの工夫に着目し、「提案理由キーワードの可視化…提案理由を根拠とする意見を考える」「意見すっきりタイム(以下、『すっきりタイム』という)…よりよい意見に収束する」「折り合いなっとくタイム(以下、『なっとくタイム』という)…折り合いの付け方を考える」活動を設定し、合意形成を図る話し合い活動に取り組むこととする。

### (2) 意見を可視化する工夫について

杉田(2013)は、話し合いの充実に向けて、「ディスプレイ(板書や掲示)を工夫する話し合いの可視化」を挙げている。「子どもたちから出された意見を可視化し、それらを話し合いの流れに即して操作化し、合意形成(収束)までの流れがわかるように構造化していくことも授業改善の一つの視点である。」と述べている。

そこで、本研究では、合意形成までの流れがわかるように板書を工夫し意見の可視化を行っていく。具体的には、「①提案理由をキーワード化し色・マーク別の短冊に可視化する」「②提案理由キーワードを基に発言を短冊に書き分類・整理する」「③意見を収束する」「④収束された意見を基に折り合いをつける」活動を取り入れ、意見を可視化することで話し合いの流れを共通理解できるようにしていく(図1)。

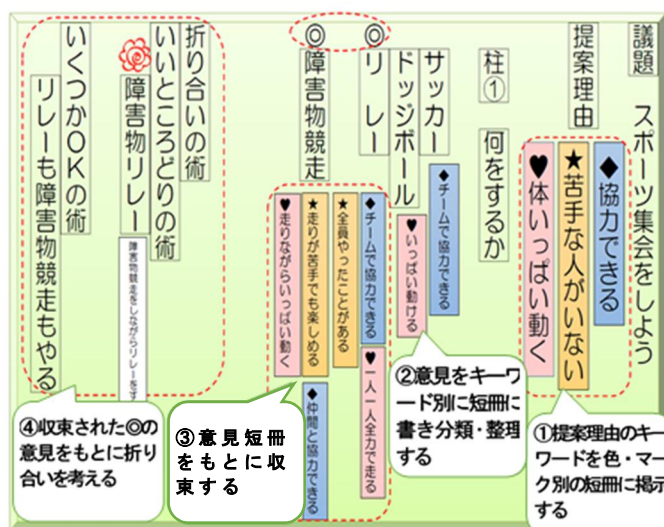


図1 意見を可視化する工夫【筆者作成】

### (3) 折り合いの付け方を考える活動について

杉田(2013)は、「決まったことには従うということとは教えなければならないが、安易に数で決めることは避けたい。ぎりぎりまで互いの意見を調整する努力をさせたいのである。」と述べている。また、『特活指導資料』では、「多数意見でまとめていくことが基本だが、賛成や反対を述べ合うだけで『数の論理』だけで決めてしまうようでは、納得がいけない児童が出てくる。それぞれの意見を比べ合いながら折り合いを付けていくことが大切である」と示し、折り合いを付ける様々な方法を挙げている(表3)。

以上のことから、意見をまとめる場において、折り合いを付けることが重要だと考える。その為には、折り合いを付ける方法を理解し使うことができる必要がある。

そこで、本研究では、表3を参考に「折り合いのつけかた(意見をまとめるまでの道筋のイメージを共有する資料)」や「折り合いの術(折り合いを付ける方法、説明、例を示した資料)」を作成した(図2)。これを基に、折り合いの付け方を確認し理解させる。そして、意見をまとめる場において、折り合いの付け方を考える活動を取り入れていく。

表3 折り合いを付ける方法  
【特活指導資料小学校編】

|                                                     |
|-----------------------------------------------------|
| みんなが                                                |
| ・それぞれの意見を合わせる。                                      |
| ・いくつかの意見のよいところを取り入れながら、新しい考えをつくる。                   |
| ・それぞれを縮小して全部行うことにする。                                |
| ・優先順位を付けて上位の考えに決める。<br>(次回はAを行うことにして、今回はBを行うことにする。) |
| 一人一人が                                               |
| ・自分の考えを変え、異なる意見に賛成する。(友達の考えのよさに気付いたら、自分の考えを変えてもよい。) |
| ・条件をつけて賛成する。                                        |

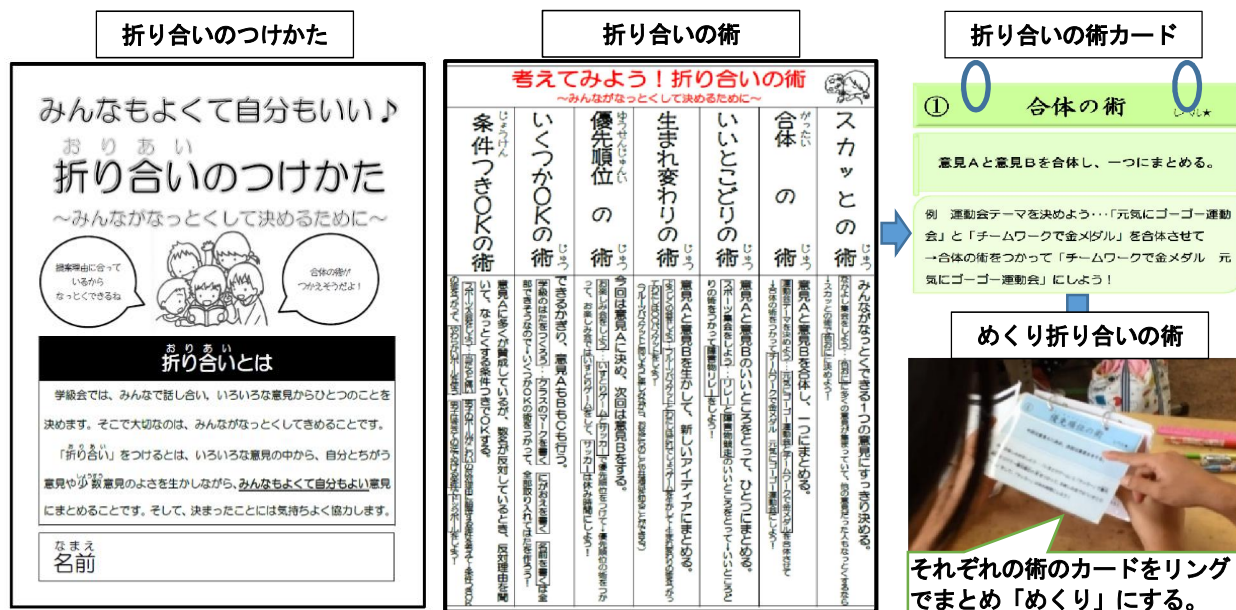


図2 児童用資料

## VI 授業実践(第4学年)

### 1 議題名「かがやけ2組カレンダーをつくろう」

### 2 議題選定の理由

本議題は、「みんなのよさを再発見し、いつまでも思い出に残るカレンダーをつくることで、仲間を大切に思い、元気いっぱいかがやく2組になりたい。」という児童の提案により選定された。「テーマを何にするか」について、提案理由を根拠とする意見を考えさせ、折り合いを付けるための手立てを講じることで、多様な意見を尊重し、合意形成を図る力を育みたい。また、一連の活動を通して、自分たちの力でよりよい学級生活をつくっていかうとする自主的、実践的な態度を高めていきたい。

### 3 本時から実践までの取組

| 実施日       | 内容                           | 時間   | 対象    |
|-----------|------------------------------|------|-------|
| 12月1日(木)  | 議題の選定。活動計画と計画委員会ノートの作成。      | 休み時間 | 計画委員会 |
| 12月2日(金)  | 議題の決定。                       | 休み時間 | 学級全員  |
| 12月5日(月)  | 学級会ノートに項目を記入。意見や理由を考えておく。    | 休み時間 | 学級全員  |
| 12月9日(金)  | 学級会ノートに自分の意見を記入。             | 朝の時間 | 学級全員  |
| 12月14日(水) | 全員の学級会ノートに目を通す。進行と板書の確認。     | 昼休み  | 計画委員会 |
| 12月15日(木) | 本時:学級活動(1)「かがやけ2組カレンダーをつくろう」 | 学級活動 | 学級全員  |
| 1月13日(金)  | 写真撮影会                        | 学級活動 | 学級全員  |

### 4 本時の展開

#### (1) ねらい

カレンダーのテーマを決める話合いで、提案理由を根拠に話し合い、折り合いの付け方を考える活動を通して、多様な意見を尊重し、合意形成を図ることができる。

#### (2) 授業仮説

①すっきりタイムにおいて、意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせることで、よりよい意見に収束することができるであろう。

②なっとくタイムにおいて、折り合いの術を活用し、折り合いの付け方を考えさせる活動を取り入れることで、よりよい合意形成を図ることができるであろう。

#### (3) 展開

| 話合いの順序                      | □指導上の留意点 ○児童の様子 (司)司会の様子                                                                                                                                               |                                                   |                                                 |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 1. 提案理由やめあての確認              | 提案理由                                                                                                                                                                   | 今の様子                                              | めざす姿                                            |
| 2. 話合い                      |                                                                                                                                                                        | どうする                                              |                                                 |
| (1) 話合いの柱の確認<br>「テーマは何にするか」 | 今までケンカがあったり、言葉づかいが悪かったりするのを、もっと仲間を大切に作るクラスになりたいです。                                                                                                                     | そこで、みんなのよさを再発見し、いつまでも思い出に残るクラスのカレンダーをつくりたいと思いました。 | カレンダー作りを通して、仲間を大切に思い、元気いっぱいかがやけ2組になれると思い提案しました。 |
| (2) 比べ合う                    | (司)提案キーワードは、★みんなのよさ再発見、♥思い出にのこるです。<br>めあてはみんなのかがやく様子を伝えるカレンダーにしようです。<br>□「比べ合う」話し合いから始める。<br>出されたテーマ ・かがやけぼくらの将来 ・ぼくわたしのスーパー特技 ・ぼくわたしのじまんチャンピオン ・かがやけ私たちの成長! ・本気になれること |                                                   |                                                 |
| (3) 意見すっきりタイム               | 仮説①提案理由を根拠とする意見を考えさせ、よりよい意見に収束する。<br>○黒板係が提案キーワードと賛成意見が多数出された意見2つに収束する。<br>①かがやけぼくらの将来 ②ぼくわたしのじまんチャンピオン<br>□折り合いの術を配り、考えたグループから短冊に意見を書かせる。                             |                                                   |                                                 |
| (4) 折り合いなっとくタイム             | 仮説②折り合いの付け方を考え、よりよい合意形成を図る。<br>○スカッと術で、「かがやけぼくらの将来」に決める。<br>○学級会を振り返り感想を発表する。<br>□決まったことを確認し、実践への見通しを持たせる。                                                             |                                                   |                                                 |
| 3. 決める                      |                                                                                                                                                                        |                                                   |                                                 |
| 4. 話合いの振り返り                 |                                                                                                                                                                        |                                                   |                                                 |
| 5. 先生の話                     |                                                                                                                                                                        |                                                   |                                                 |
| 6. おわりの言葉                   |                                                                                                                                                                        |                                                   |                                                 |



## VII 結果と考察

### 1 作業仮説(1)の検証

意見を比べ合う場において、教師が意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせることで、児童は多様な意見を尊重し、よりよい意見に収束することができるであろう。

#### 【結果】

本研究では、提案理由を根拠とする意見を考えさせるため、提案理由をキーワードにし、色・マーク別の短冊に発言をまとめ、意見を可視化できるよう工夫を行った(図3)。そして、「すっきりタイム」を取り入れ、よりよい意見に収束できる展開とした。

比べ合う場面では、児童は「みんなの自慢できることを知って、

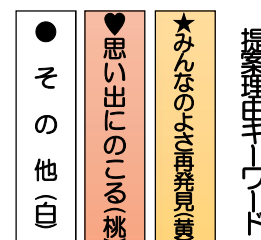


図3 意見の可視化の工夫

みんなのよさを再発見できると思うからです。」等と提案理由キーワードを根拠に発言していた。話合いの結果、提案理由を根拠とする意見の割合は91%であった(図4)。黒板係の児童は、発言を色・マーク別短冊に書き分類・整理し、意見を可視化していった。話合い後半、全体で板書を見ながら話合いの流れを確認したところ、♡短冊は多くあるが★短冊が少ないことに気付くことができた。そこで、「★みんなのよさ再発見」の視点で意見を考える時間を設けた。すると児童は、異なる意見や少数意見の中にも、提案理由に合う意見があることに気付き発言していた(表4)。

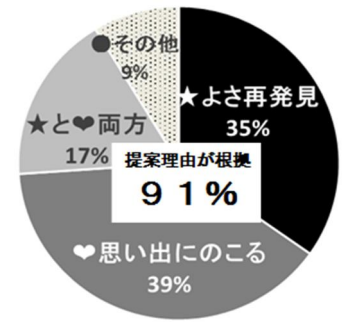


図4 提案理由が根拠の意見

表4 提案理由に合う意見を考え、変容した意見の様子 (視点: ♡思い出に残る ★みんなのよさ再発見 ●その他)

|    | 話合い 前半                                                                  | 話合い 後半                                                             | 意見のよさを考える視点                                                                                       |
|----|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A児 | 『輝けぼくらの将来』に賛成<br>●未来になってポスト1を見たときに、成人式とかに将来の夢を叶えられているかな?と見ると楽しいと思うからです。 | 『僕私の自慢チャンピオン』に賛成<br>★みんなのことができることがわかって、みんなのことをもっと知れるかもしれないからです。    | ●その他→★みんなのよさ再発見<br>楽しいという視点から、みんなの事をもっと知れるという視点で意見のよさを考えることができています。                               |
| B児 | 『輝けぼくらの将来』に賛成<br>♡大人になって、こどもの頃はこんなのになりたかったんだなと思い出せるからです。                | 『かかやけ私達の成長』に賛成<br>♡大人になって、自分はこんな感じで成長したんだなと思い出に残るし★みんなの成長がわかるからです。 | ♡思い出に残る→♡と★みんなのよさ再発見<br>子どもの頃の夢を思い出せるという視点から、成長したことを思い出せる、みんなの成長したことを知れるという♡と★両方の視点で考えることができています。 |

「すっきりタイム」では、板書を見ながら話合いの流れと短冊を確認していった(図5)。そして、提案理由キーワードに基づいた♡と★の短冊が多く出され、よりよいテーマと考えた「①輝け僕らの将来」「②ぼくわたしの自慢チャンピオン」の2つのテーマに収束し「なっとくタイム」に繋げることができた。

実践前と実践後のアンケートの結果では、「黒板を見て話合いに活かしている」と回答した児童の割合は84%から100%に増加した。理由には「短冊を分けて見やすいから」「提案キーワードでまとめているから」等とあった。また、「自分と違う意見や少数意見のよさはないか話し合っている」と回答した児童が57%から92%に増加した。

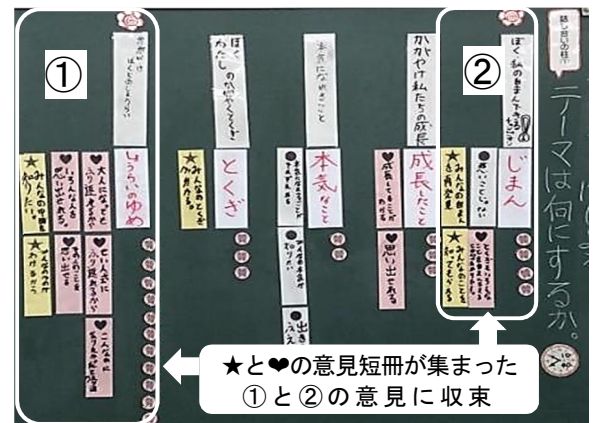


図5 「意見すっきりタイム」の板書の様子

## 【考察】

これまでの話合いでは、自分の意見を通したり自分の好き嫌いで判断したりする発言がみられたが、本時では、提案理由を根拠とする意見で話し合うことができた。また、意見を可視化したことにより、視点の偏り(★短冊が少ない)が理解でき、視点に合った意見を考えることができた。これらのことから、提案理由をキーワード化し話合いの視点としたことで、自分の考えにこだわったり興味の有無で判断したりせず、異なる意見や少数意見にも目を向け話し合うことができたと考えられる。そして、可視化を手立てに、意見短冊が集まるよりよいテーマと考えた意見に収束することができた。

以上のことから、意見を比べ合う場において、意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせ、「意見すっきりタイム」を取り入れることは、多様な意見を尊重し、よりよい意見に収束するために有効な手立てであると考えられる。

## 2 作業仮説(2)の検証

意見をまとめる場において、教師が収束された意見を基に折り合いの付け方を考えさせる活動を取り入れることで、児童はよりよい合意形成を図ることができるであろう。

### 【結果】

#### (1)「折り合いの付け方を考える活動」について

本研究では、意見をまとめる場においてよりよい合意形成を図れるよう「折り合いの術」を活用し、折り合いの付け方を考える活動「折り合いなっとくタイム」を設定した。活動は「各グループで考える」「折り合いの付け方を出し合う」「比べ合う」「決める」流れとした。

図6は、あるグループで話し合う場面の記録である。児童からは「みんなも納得できると思うから」、「みんなもよくて自分もいい意見だから」等と発言があり、より納得できる合意の方法を考える様子がみられた(図6下線)。次に、各グループで考えた折り合いの付け方を全体で出し合った。話し合いでは「スカットの術を使い、輝け僕らの将来に決める」という意見が多く、理由には「多くの意見が集まっていて納得できるから」等と、話し合いの結果を基に、みんなが納得できるテーマに決めようとする姿があった。他に「優先順位の術を使い、コメントに将来の夢、写真に自慢を書く」という意見があり、2つのテーマを採用することで、みんなが納得できるのではないかと考えていた(図7①)。そして、比べ合う話し合いでは、多くの賛成と★♥短冊(提案理由に基づく意見のよさ)があるという意見や、コメントと写真のテーマは1つにまとめたほうがよいと条件に合わせた意見などから「スカットの術を使って、輝け僕らの将来」に決めることができた(図7②)。

#### (2)「合意形成を図る話し合い活動」を通して

表5は「なっとくタイム」導入後、計3回行った学級会で決まったことである。児童は話し合いの内容や流れに合った折り合いの術を選び、合意形成を図ることができた。

| D児(グループの司会役)                                                                                   | E児                                         | F児                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 折り合いの術は何をつかったほうが良いと思いますか？<br>スカットの術か優先順位の術？                                                    | 優先順位の術使える？                                 |  |
| なんか、多くの意見が集まっているのにコメントをやって、「自慢」が二番目だから、写真・ポーズは、そういう感じにする感じ？                                    |                                            |  |
| どっちが使えると思いますか？                                                                                 | スカットの術が良いと思います。スカットの術をつかって、ひとつに(将来の夢)まとめる。 |                                                                                     |
| Fさんはどの術が良いと思いますか？                                                                              |                                            | スカットの術が良いと思います。理由は、みんながスカットとできるからスカットの術。それで、みんなもよくて自分もいい意見だから、それが良いと思います。           |
| 私もスカットの術が良いと思います。理由は、将来の夢に多くの賛成意見が集まっていて、他のものは少数だから、だいたいの人が納得できるから、賛成意見を考えれば、みんなも納得できると思うからです。 |                                            | じゃ、スカット？                                                                            |
|                                                                                                | じゃスカットの術で！                                 |                                                                                     |

図6 グループで折り合いの付け方を話し合う様子

#### ①折り合いの付け方を出し合う

- ・僕たちグループは、スカットの術を使って「将来の夢」にしたほうが良いと思います。理由は、**多くの意見が集まっていて、みんなもだいたいの人が納得できているから**良いと思うからです。
- ・私たちは、優先順位の術を使って、**コメントに「将来の夢」を書いて、写真には「自慢できること」を書く。**が良いと思います。
- ・僕たちグループはスカットの術を使って「将来の夢」にします。なぜなら、「将来の夢」は**いっぱい意見が集まっている**ということば、**納得できる**と思うからです。

#### ②賛成・反対を比べ合う

- ・スカットの術を使って「将来の夢」にします。理由は、多くの意見もあるし、**★マークも♥マークもいっぱいあるから**です。
- ・私は、スカットの術を使って「将来の夢」に賛成します。理由は、**多くの人が賛成しているし、キーワードが入っているから**です。
- ・私は優先順位の術に反対します。理由は、コメントに「将来の夢」を書いて、写真には「自慢のこと」を書いたら、「将来の夢」があまり伝わらないので、**一つにまとめた方が**良いと思います。

図7「折り合いなっとくタイム」全体での話し合い(抜粋)

表5「折り合いなっとくタイム」で決まったこと

| 議題               | 折り合いの術   | 決まったこと                         |
|------------------|----------|--------------------------------|
| ①一人一鉢運動のテーマをきめよう | いいとこどりの術 | 2つのテーマのいい所をとって、1つのテーマにまとめる。    |
| ②なかよしスポーツ集会をしよう  | 優先順位の術   | 集会は「人間色おに」、休み時間に「キャタピラリレー」をする。 |
| ③かがやけ2組カレンダーを作ろう | スカットの術   | 1つのテーマ「輝け！僕らの将来」にすっきり決める。      |

図8は「折り合いをつけて話し合っていますか」の回答である。88%の児童が肯定的に回答し、理由の記述からは、折り合いを付け合意形成を図るよさを実感している様子がわかる。

表6は「なっとくタイム」導入前後の学級会の感想である。導入前は、多数決で決めたり安易に意見を合わせたりし納得していない様子があるが導入後は、納得できた様子や実践への意欲等の肯定的な感想が多く見られた。

### 【考察】

本時では、提案理由に合う意見を選んだり複数の意見を生かそうとしたりと、よりよい決め方を考え話し合い、折り合いを付けテーマを決めることができた。図8や表6からは「なっとくタイム」を設定することでよりよい合意形成を図ることができた様子がわかる。

これは、「折り合いの付け方」を活用し意見をまとめるまでの道筋を共有したことや、「折り合いの術」を活用し意見をまとめる方法を共通理解したからだと考えられる。そして、「なっとくタイム」を導入し「みんなも自分もいい」決め方はどれか納得するまで話し合い、まとめていく経験を通して、合意形成を図る力を育むことができたと考えられる。

以上のことから、意見をまとめる場において、収束された意見を基に折り合いの付け方を考える活動は、合意形成を図る手立てとして有効であったと考えられる。

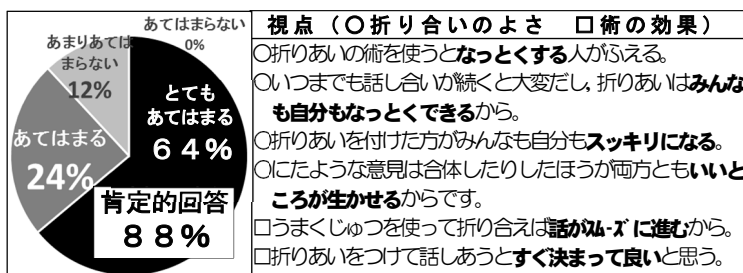


図8 「なっとくタイム」導入後「折り合いをつけて話し合っているか」の回答

表6 「なっとくタイム」導入前後の児童の感想

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入前 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてにそって発言してほしい。</li> <li>・話し合いがまとまらず大変だった。</li> <li>・時間が無くなり、司会が多数決で勝手に決めたので不満でした。</li> <li>・合体案ではどんなルールなのかわからないし、時間が足りないと思います。</li> </ul>                                                                                                                                                             |
| 導入後 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなのよかった所は、提案キーワードにそって意見を言っていたところです。</li> <li>・今日は自分のグループがいいところどりを使ったテーマが決まってくれよかったです。発表もできてよかったです。次の学級会もがんばります。</li> <li>・AさんやBさんやCさんがいいところどりの術や合体の術を使っていたのでいいと思いました。</li> <li>・今日、いつもよりなっとくしたのでよかったです。</li> <li>・いいテーマが決まってくよかったです。決まったことにきもちよく協力できそうです。</li> <li>・カレンダー作りをみんなできよう力したいです。</li> </ul> |

## Ⅷ 成果と課題

### 1 成果

- (1) 意見を比べ合う場において、意見の可視化を工夫し提案理由を根拠とする意見を考えさせることで、多様な意見を尊重し、よりよい意見に収束することができた。
- (2) 意見をまとめる場において、「折り合いの術」を活用し、収束された意見を基に折り合いの付け方を考えさせる活動を設定したことで、よりよい合意形成を図ることができた。

### 2 課題

意見をまとめる場において、様々な折り合いの術から、話し合いの内容や流れに適切な折り合いの付け方を判断し、よりよい意見にまとめていく力が必要である。

### 《主な参考文献》

|                              |       |           |      |
|------------------------------|-------|-----------|------|
| 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』          | 文部科学省 | 東洋館出版社    | 2008 |
| 『楽しく豊かな学級学校生活をつくる特別活動(小学校編)』 | 文部科学省 | 国立教育政策研究所 | 2014 |
| 『自分を鍛え、集団を創る！特別活動の教育技術』      | 杉田洋   | 文溪堂 小学館   | 2013 |